

# 北見市

山内謙吾

## ・地名の由来・歴史

北見市の市名の由来は、松浦武四郎（江戸時代後半から明治時代までに活躍した探険家）が命名した国名「北見国」からであり、その「北見」の由来は、過去のこの地方域の通称「北海岸」と快晴の日に樺太が「見」える事から、一字ずつとったものである。

明治 2 年（1869）7 月に北方開拓のために開拓使が設置され、同年 8 月、蝦夷を北海道に改め、現在の北見は宗谷を含む「北見国」8 郡のうち、常呂郡とされた。

明治 5 年（1872）開拓使は戸籍編製のために従来あったアイヌ集落（コタン）名を村とすることにした。常呂郡下には、トコロ（常呂）村・チイウシ（少牛）村・トウフツ（鐘沸）村・ムエカヲツネ（生顔常）村・フトチャンナヘ（太茶苗）村・テシマナビ（手師学）村・ノツケウシ（野付牛）村の 7 村があり、明治 8 年（1875）括弧内の本字に改正された。

明治 15 年（1882）開拓使が廃止され、札幌・函館・根室の三県が置かれ、北見国は根室県の圏域に入った。明治 16 年、常呂村に常呂外六ヶ村戸長役場が置かれたのが、当市行政の始まりであった。

明治 19 年（1886）には、三県を廃止し、北海道庁を設置し、本格的な開拓の手始めとして道路網の整備に着手した。当地域では中央道路の一環として囚徒を使役して、網走～上川間の「北見道路」を明治 24 年（1891）完成、あわせて各所に駅舎が置かれ、以後内陸部の開拓は飛躍的に進んだ。

常呂村では明治 28 年（1895）、高知県の土佐団体が入地したのが草分けで、明治 31 年には岐阜団体が入地した。野付牛村では、明治 30 年 5 月に坂本竜馬の甥、坂本直寛が率いる高知県の移民団、北光社が入地、同年 6 月と翌 31 年 9 月には屯田歩兵第 4 大隊が入地、開拓の主力となった。

野付牛村の急速な開拓で、明治 30 年（1897）7 月、常呂外六ヶ村戸長役場から野付牛村・生顔常村戸長役場が分離され、明治 42 年（1909）年には北海道二級町村制を施行して、生顔常村を廃し野付牛村となった。明治 44 年（1911）、池田～野付牛間に鉄道が開通したのと薄荷景気が相まって経済的に発展し、大正 4 年（1915）4 月、一級町村制を施行し、置戸・武華村を分離、大正 5 年 4 月には町制を施行、野付牛町と改め、大正 10 年（1921）4 月には端野・相内村を分村した。昭和 7 年（1932）石北線全通と道路網も整備され、商業・医療・各種機関も充実して、昭和 17 年（1942）6 月、市制を施行、北見国で初の市となることから野付牛町を北見市と改称した。戦後も都市基盤を整備し、工場誘致、大学誘致など各種機能の集積を図り、昭和 31 年（1956）9 月には相内村を合併、昭和 54 年（1979）4 月には人口 10 万人を

突破した。

常呂外四ヶ村戸長役場は大正 3 年(1914)4 月に鑑沸村(現佐呂間町)を分離、大正 4 年 4 月には二級町村制を施行し、四ヶ村を統合して常呂村となり、昭和 25 年(1950)11 月、町制を施行して常呂町となった。

大正元年(1912)11 月、野付牛～留辺蘂間に鉄道が開通したのを発展の鍵として、大正 4 年、野付牛村から分村独立した武華村は、古くから有名な温根湯温泉とともに豊富な森林資源にも恵まれ、大正 9 年(1920)には森林軌道が敷設されるなど林業が盛んとなり、大正 10 年(1921)町制を施行、武華村を留辺蘂町と改称した。昭和 13 年(1938)には町勢の隆盛とともに一級町村制を施行した。

明治 30 年(1897)に屯田歩兵第 4 大隊第 1 中隊が入地した端野村は、大正 10 年に野付牛町から独立。昭和 36 年(1961)に町制を施行、端野町となった。

平成 18 年(2006)3 月 5 日、これら市と町が対等合併し、人口 13 万人の新「北見市」が誕生した。

図 1 北見市概要

## ・地理・気候

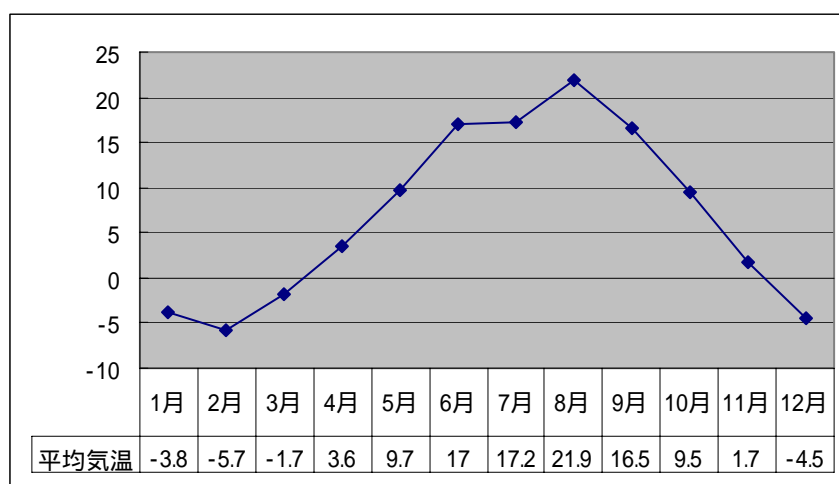
北見市は北海道の東部、北緯 43 度 48 分 11 秒東経 143 度 53 分 27 秒に位置し、人口 13 万人のオホーツク圏最大の中核都市である。北見市の面積は 1,427.56 平方キロメートルで、これは北海道で第 1 位。全国で第 4 位の広さである。これは、香川県の 77% に相当する広さである。石北峠からオホーツク海までが一つのまちとなり、その道路延長は約 110 km で、東京駅から箱根までに相当し、長さは日本一である。



出典：北見市 H P

北見市の気候は、旧・常呂町の地域では海岸部に存在するため、寒暖の差が少なく夏は 22 度、冬は - 10 程度と、季節ごとの温度差は比較的少ないが、

グラフ 1 年間気温推移



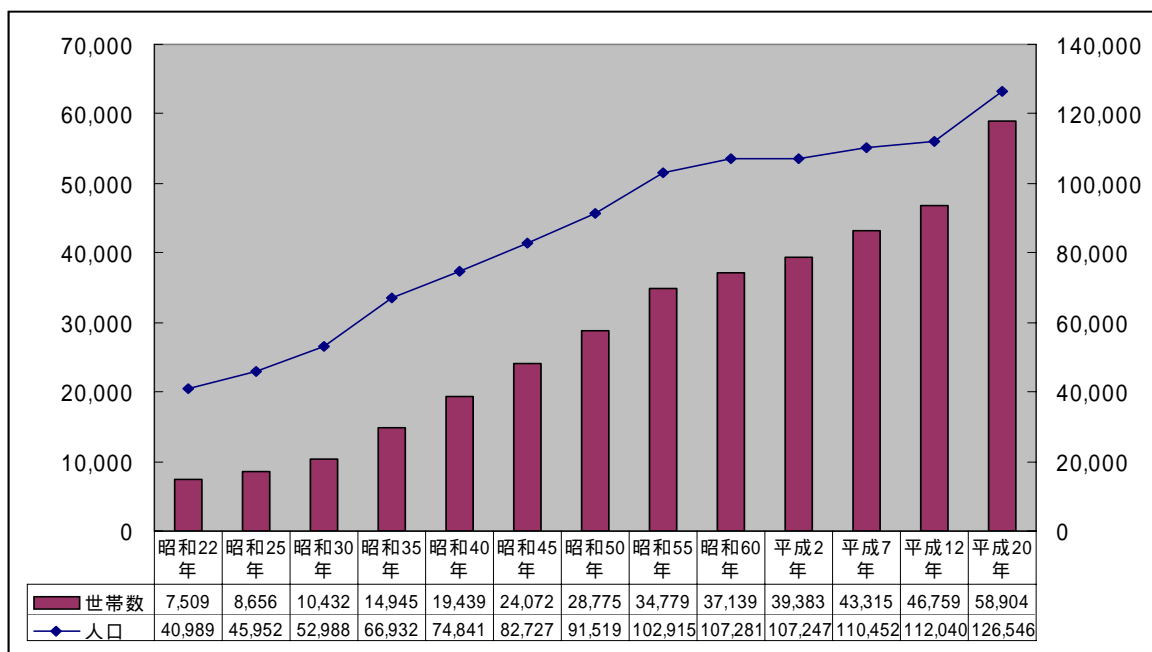
冬は流氷が接岸する。

しかしそれ以外の地域は、盆地に存在するため寒暖の差が激しく、夏は 35 度、冬は - 20 度以下に達する。積雪量は北海道内では少なく、年間降水量も北海道では最も少ない。

日照率が全国でも有数の高さを誇り、太陽エネルギーを利用した科学研究が盛んである。気温の年平均は約 7.6 度。

## ．人口・世帯数推移

グラフ 2 人口・世帯数推移



北見市の人口は年々増加している。市町村合併したことにより 2008 年現在人口は 12 万人を超えるまでに至った。北見市はほかの地方都市では過疎化が進んでいるにもかかわらず市町村合併した影響もあるが年々人口を増加させている。

## ．産業・産業別人口

農業・林業・観光業・製糖業が主産業で、特に畑作農業が盛ん。タマネギの生産量は全国一で国内生産量の約 25% を占める大正から昭和期にかけて北見地方は薄荷の生産で世界の 7 割を占めていたこともあり、薄荷記念館がある。現在薄荷は化学的に合成する手法が主流となり栽培面積は激減したが、現在でも一部で栽培されている。またしばしば自生している姿も見られる。

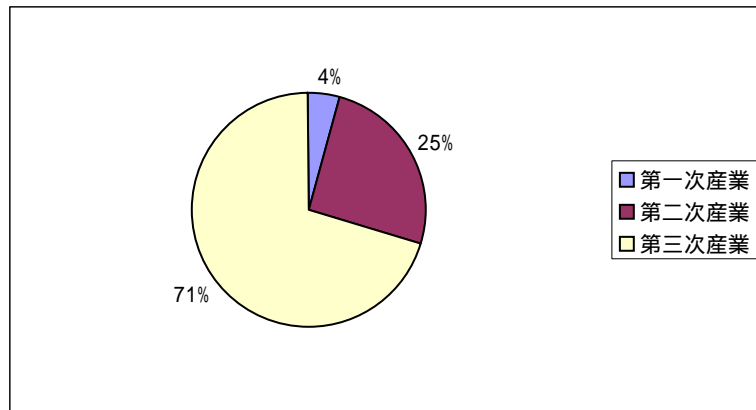
オホーツク海に面する旧・常呂町には常呂漁業協同組合があり、全国でも有数の漁獲高を誇る。ホタテが獲れ、サケ・マス毛ガニも獲れる。サロマ湖ではカキ・ホタテの養殖が盛んである。

表 1 産業別人口

第 1 次産業		第 2 次産業			第 3 次産業				計
農業	その他	製造業	建設業	その他	卸売・小売業	サービス業	運輸・通信業	その他	
2,115	308	6,021	7,748	109	14,675	15,927	3,742	4,313	54,958

グラフ 3 産業別人口

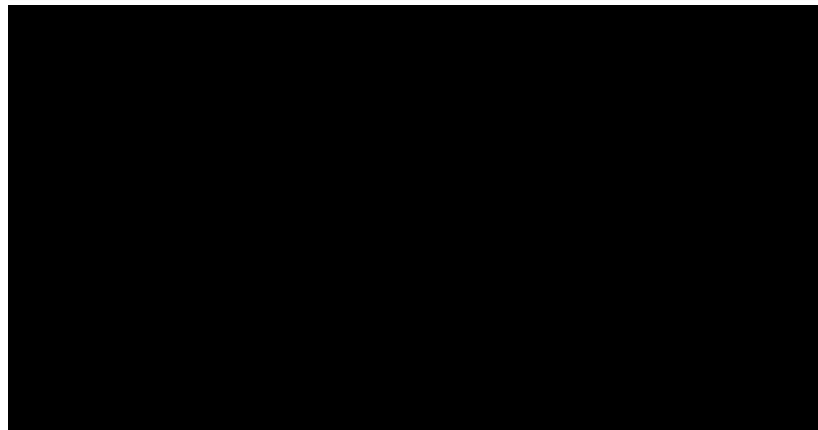
農業従事者は年々減少しており、そしてそれに伴い農業従事者の高齢化も進んでいる。農業従事者の年齢は 50 代以降が中心となっており、全国の農村でも問題となっている後継者不足が北見市でも起こっている。漁業就業者数も同じように減少しているが、漁業就業者の年齢はあまり高齢化の傾向を示してはならず、農業従事者とは違う傾向を示している。



出典：北見商工会議所 HP

北見市の農業は、たまねぎと畑作 3 品（小麦・てん菜・馬鈴薯）おもに生産し、特にたまねぎの生産にかけては日本でもトップクラスである（しかも北見市のシンボルであるカントリサインには

グラフ 4 産業別人口の内訳

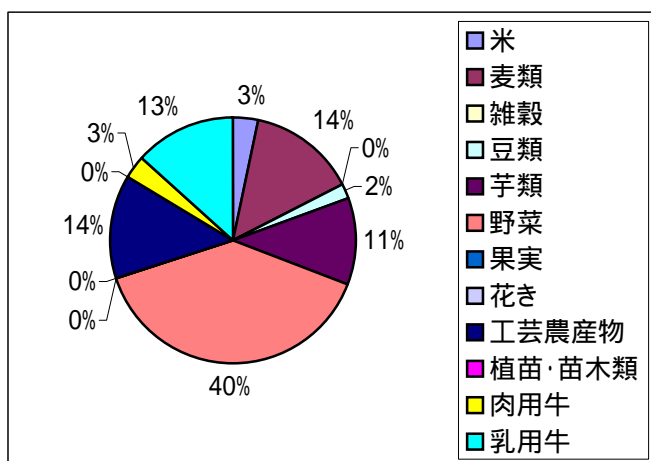


（データは平成 12 年のもの）

たまねぎをかたどったキャラクターが使用されている。）平成 17 年の農業産出額の総額は、約 3,137 千万円である。平成 13 年から 16 年まで農業産出額は増加していたが、平成 17 年に減少に転じている。

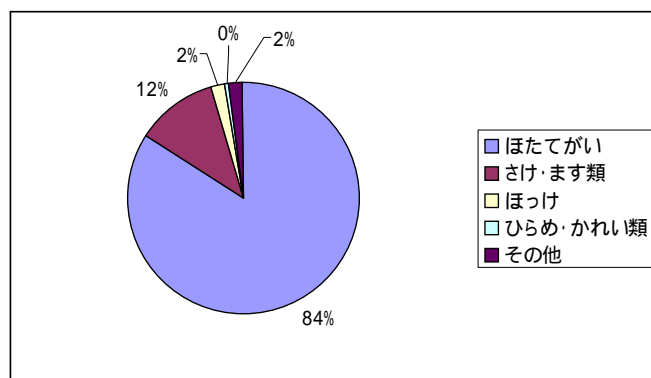
グラフ 2~3 から北見市は第一次産業である農業だけでなく、第三次産業の卸売り・小売業やサービス業（これは北見に住んでいた自分の主観ではあるがパチンコ屋が多いことに

グラフ 5 農業産出額の内訳



出典：農林水産省 HP わがマチ・わがムラ

グラフ 6 魚種別漁獲量



出典：農林水産省 HP わがマチ・わがムラ北見市

よると思われる)に従事する市民が多いことがわかる。

グラフ 5 を見てわかるように、北見市はタマネギを中心とした野菜生産が盛ん。同じように酪農、特に乳用牛の飼育も盛ん。

グラフ 6 を見てわかるように、北見市の漁業はほたてがいの養殖が盛んで、北見市の漁獲量の 8 割強をしめる。しかし、ほたてがいだけでなくさけ・ます類もある程度漁獲されている。

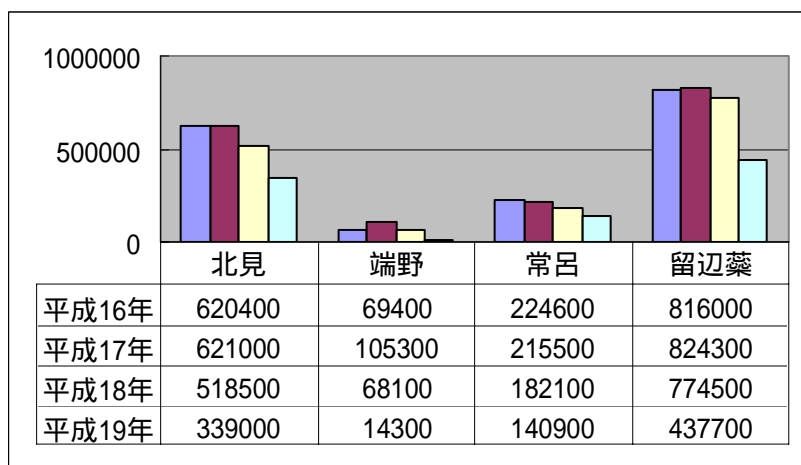
## ・観光

北見市には、北見ハッカ記念館や北海道遺産であるピアソン記念館がある。グルメの町としても有名である。旧・留辺蘂町には、世界最大級のからくり時計果夢林があり、その裏手には網走管内最大級の温泉郷おんねゆ温泉が広がっている。

旧・端野町は町の中心にスキーリゾートがあることで知られている。日本有数の日照率から太陽をシンボルとし、太陽まつりなど太陽にちなんだ催しが盛ん。旧・常呂町は日本初の屋内専用のカーリングホールが建てられた町で、多くのオリンピック選手を産むなどカーリングが盛ん。映画[シムソンズ]の舞台にもなった。

グラフ 6 を見ると観光入込み客数は、年々減少傾向にある。しかし 4 市町が合併したことによってさらに魅力的な町になり、これから観光客の増加が期待される。観光入込み客

グラフ 7 観光入込み客数



数は、旧・留辺蘂町がもっとも多くこれは留辺蘂にオホーツク最大の温泉地おんねゆ温泉が存在するからである。その次は北見市で、北見市はオホーツク各地から物産が集まるオホーツクの中心地であるからである。旧・常呂町ではホタテなどの海産物が有名でそれ目当てで常呂を訪れる観光客も多いようだ。旧・端野町にはスキーリゾートなどの観光地がある程度存在しているものの、苦戦を強いられている物が多い。

北見市の観光名所：北見ハッカ記念館・薄荷蒸溜館・仁頃はっか公園・ハッカ御殿・ピアソン記念館（北海道遺産）・坂本直寛彰碑と北光社農場本部跡の碑・屯田兵人形と信善光寺・美里洞窟（鍾乳洞遺跡）・北きつね牧場・山の水族館・郷土館・北海道きつね村・トナカイ観光牧場・留辺蘂町開拓資料館（旧武華駅跡）・小野塚正信記念館・エゾムラサキツツジの群落（北海道指定の天然記念物）・道の駅おんねゆ温泉・高さ 20m、世界一の大きさの鳩時計「果夢林（かむりん）」（2004 年 6 月）・「果夢林の館（かむりんの館）」（木工体験工房などがある）・石北峠・くまがい北きつね牧場・ワッカ原生花園（北海道遺産）・ワッカネイチャーセンター・ところ遺跡の森（国指定史跡「常呂遺跡」）・「ところ遺跡の館・埋蔵文化財センターどきどき」・常呂町展望塔（ホタテタワー）

北見市のレジャー施設：北見競馬場（ばんえい競馬）・北見地区農道離着陸場・北見ファミリーランド（遊園地）・北見若松市民スキー場・モイワスポーツワールド・北見市富里森林公園・北網圏北見文化センター（博物館・科学館・美術館・プラネタリウム）・温根湯温泉・塩別温泉・滝の湯温泉・北見温泉（ポン湯）・北見富士カートサーキット場・釣り堀厚和・留辺蘂町弓道場（「はまなす国体」資料室を併設。留辺蘂町総合運動公園にある）・八方台（森林公園、スキー場）・まきばの里（花園・瑞穂地区にある）・創造の森・端野メビウススキー場・のんたの湯・常呂町カーリングホール・北見湯元 のつけの湯

北見市のお祭り：北見ぼんちまつり（7月中旬）・北見菊まつり

図 2 北見ファミリーランド



出典：北見市観光協会HP

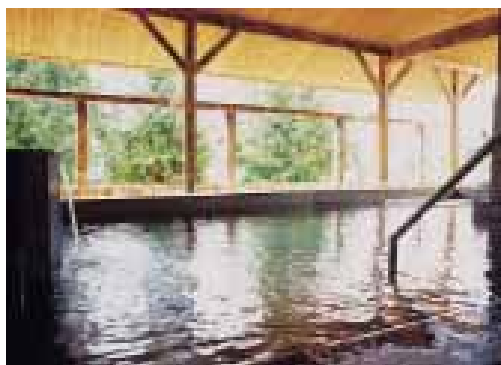
図 3 北見ハッカ記念館



出典：北見市観光協会HP

(10月中旬 - 11月上旬)・北見冬まつり(2月中旬)・極寒の焼肉祭り(2月中旬)・温根湯  
つつじまつり(毎年5月上旬)・温根湯温泉まつり(毎年8月の第1土曜・翌日曜の2日間)・  
太陽まつり(8月)・たんのカレーライスマラソン(9月)

図4 おんねゆ温泉



出典：北見市観光協会 HP

図5 のんたの湯



出典：北見市観光協会 HP

図5 ピアソン記念館



#### 参考 HP

北見市 HP : <http://www.city.kitami.lg.jp/>

北見商工会議所 HP : <http://www.okhotsk.or.jp/kitami-cci/>

北見市観光協会 HP : <http://www.kitamikanko.jp/>

ウィキペディア : <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E8%A6%8B%E5%B8%82>